

安全に関する情報リスト

施設の基本情報										津波シナリオ、影響評価、対策等													
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等				C 建家の耐震性/耐津波性評価				1 保守的に想定したシナリオ	2 シナリオに基づくリスク評価	3 対策の内容										
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ (令和2年6月末時点)		建家の耐震分類	構造	耐震性*1	耐津波性*2													
			使用済燃料																				
1	分離精製工場 (MP)	使用済燃料の貯蔵、高放射性的の廃液の貯蔵等	低濃縮ウラン燃料	燃料集合体 (貯蔵プール) BF	112体	約17.2 tU	FP (Cs-137等) Pu U	A類	地下1階、一部地下3階、地上6階 RC造 (一部屋根部はS造)	設計地震動に対し、建家は維持される。 (設計地震動に対する応答計算で確認)	設計津波に対し、建家は維持される。 比：追而	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。</li> <li>建家の開口部等から、浸水する可能性がある。</li> <li>セルは設計地震動及び設計津波に対して維持されるが、給気口等の開口部があるため、海水の流入は否定できない。</li> <li>セル内の貯槽等は維持され、建家外への放射性物質の流出はない。</li> <li>貯蔵プールに海水が流入し、プール水の一部分が津波とともに建家外に流出する可能性がある。</li> <li>設計地震動及び基準津波に対して、ウラン溶液を内包する貯槽が損傷し、貯槽内のウラン溶液が建家外に流出する可能性がある。</li> </ul>	燃料集合体 (燃料貯蔵バスケット内貯蔵) は維持されるため、環境への影響はない。	○燃料集合体の施設外への搬出									
					MOX燃料	153体	約23.5 tMOX								FP (Cs-137等) Pu U	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水高さ以上に保管しており、環境への影響はない。</li> </ul>	○工程洗浄により施設外へ搬出						
					プール水	溶液 (貯蔵プール)	約4,200m <sup>3</sup>								~10 <sup>11</sup> Bq			FP (Cs-137等) Co	<ul style="list-style-type: none"> <li>プール水の一部分が津波とともに建家外に流出する可能性があるが、インベントリが小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ④)</li> </ul>	検討中			
															<ul style="list-style-type: none"> <li>セル内の貯槽等は維持され、環境への影響はない。</li> </ul>	○洗浄液の移送							
																	<ul style="list-style-type: none"> <li>セル内の貯槽からウラン溶液の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリが小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○U溶液の安定化 (粉末化) 及び施設外への搬出</li> <li>○洗浄液の移送</li> </ul>					
															<ul style="list-style-type: none"> <li>【評価の前提とした対策】</li> <li>○耐震性確保の観点から中間貯槽等の液量を制限 (対策により環境への影響はない)。</li> <li>○貯槽に海水が流入する可能性のある配管 (貯槽に接続されたサンプリングベンチのドレン配管) の閉止 (対策により環境への影響はない)。</li> </ul>	○洗浄液の移送							
																	<ul style="list-style-type: none"> <li>セル内の貯槽等は維持され、環境への影響はない。</li> </ul>						
															<ul style="list-style-type: none"> <li>【評価の前提とした対策】</li> <li>○貯槽に海水が流入する可能性のある配管 (プルトニウム製品貯槽に接続されたグローブボックスのドレン配管) の閉止 (対策により環境への影響はない)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セル外の貯槽からウラン溶液の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリが小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ②)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○U溶液の安定化 (粉末化) 及び施設外への搬出</li> </ul>				
																	<ul style="list-style-type: none"> <li>【評価の前提とした対策】</li> <li>○金属製容器への詰め替え及び施設外への搬出 (対策により環境への影響はない)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水高さ以上に保管しており、環境への影響はない。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○U溶液の安定化 (粉末化) 及び施設外への搬出</li> </ul>			
															<ul style="list-style-type: none"> <li>【評価の前提とした対策】</li> <li>○耐震性確保の観点から高放射性廃液貯槽の液量を制限 (対策により環境への影響はない)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○未濃縮液・希釈廃液の高放射性廃液貯蔵場 (HAW) への移送</li> </ul>							
						ヨウ素フィルタ (AgX)	保管容器に保管 4F (T.P.+16.44m)										29基		FP (I-129)				

安全に関する情報リスト

施設の基本情報										津波シナリオ、影響評価、対策等								
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等				C 建家の耐震性/耐津波性評価				1 保守的に想定したシナリオ	2 シナリオに基づくリスク評価	3 対策の内容					
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ (令和2年6月末時点)		建家の耐震 分類	構造	耐震性*1	耐津波性*2								
2	分析所 (CB)	各工程の試料の分 析、放射線管理									B類	地下1階、地 上3階 RC造	設計地震動 に対し、建 家が維持さ れない可能 性がある。 (地下階は 維持され る。)	設計津波に 対し、建家 が維持され ない可能性 がある。 (地下階は 維持され る。)	*1:比は保有水平耐力比の最小値 *2:比は保有水平耐力/津波荷重の最小値	・設計地震動及び設計津波に対して 建家は維持されない可能性があり、浸 水する。 ・グローブボックス等が維持されず、 放射性物質の一部が建家外に流出する 可能性がある。 ・設計地震動に対して、地下階の貯槽 等は、維持されない可能性があるがそ れを包含するセル等は維持される。 ・地下階のセルには、給気口等の開口 部があるため、海水の流入は否定でき ず、貯槽内の廃液の一部が建家外に流 出する可能性がある。	地上階の放射性物質が建家外に流出する可能性があ るが、インベントリが小さく、環境への影響は大きく ない。(シナリオ④)	検討中
			分析廃液	溶液(貯槽) BF1	約11m <sup>3</sup>	約1.7×10 <sup>12</sup> Bq	FP (Cs-137等)	比:0.6(地 上階)、2.4 (地下階)	貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性があ るが、セルが維持されるため、環境への影響は大きく ない。(シナリオ⑤)	検討中								
3	廃棄物処理場 (AAF)	低放射線の液体廃棄 物の処理及び低放射 性の固体廃棄物の処 理	低放射性濃縮廃液	廃液(貯槽) BF	約581 m <sup>3</sup>	~10 <sup>14</sup> Bq	C-14 FP (I-129、 Cs-137等)				B類	地下1階、一 部地下中2 階、地上3階 RC造	設計地震動 に対し、建 家が維持さ れない可能 性がある。 (地下階は 維持され る。)	設計津波に 対し、建家 は維持され る。 比:1.2	・設計地震動に対して建家は維持さ れない可能性があり、浸水する。 ・設計地震動に対して、地上階の貯槽 等は維持されず、放射性物質が建家外 に流出する可能性がある。 ・設計地震動に対して、地下階の貯槽 等は、維持されない可能性があるがそ れを包含するセル等は維持される。 ・地下階のセルには、給気口等の開口 部があるため、海水の流入は否定でき ず、廃液の一部が環境に流出する可 能性がある。 ・地上階の低放射性固体廃棄物等が浸 水し、海水へ移行した一部の放射性物 質が建家外に流出する可能性がある。	貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性があ るが、セルが維持されるため、環境への影響は大きく ない。(シナリオ⑤)	検討中	
			低放射性廃液	廃液(貯槽) BF	約387m <sup>3</sup>	~10 <sup>11</sup> Bq	C-14 FP (I-129、 Cs-137等)											
			廃溶媒	廃液(貯槽) BF	約19 m <sup>3</sup>	~10 <sup>10</sup> Bq	FP (Cs-137等)											
			低放射性固体廃棄物	カートンボック ス、袋 1F、2F	約20 t	~10 <sup>10</sup> Bq	FP (Cs-137等)											
			ヨウ素フィルタ (AgX)	保管容器に保管 1F	30基		FP (I-129)											
			ヨウ素フィルタ (活性炭)	保管容器に保管 1F	3基		FP (I-129)											
4	クリプトン回収技 術開発施設 (Kr)	クリプトンガスの貯 蔵	クリプトンガス	気体(シリンダ) BF1	4本	9.0×10 <sup>14</sup> Bq	Kr	B類	地下1階、地 上2階(一部 地上3階) RC造	設計地震動 に対し、建 家は維持さ れる。 比:1.8	設計津波に 対し、建家 は維持され る。 比:1.6	・設計地震動及び設計津波に対して建 家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可 能性がある。 ・セルは設計地震動及び設計津波に 対して維持されるが、給気口等の開口 部があるため、浸水する可能性がある。 ・セル内の貯蔵シリンダの閉じ込めは 維持される。	貯蔵シリンダの閉じ込めは維持されるため、環境への影 響はない。					

安全に関する情報リスト

施設の基本情報								津波シナリオ、影響評価、対策等													
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等				C 建家の耐震性/耐津波性評価				1 保守的に想定したシナリオ	2 シナリオに基づくリスク評価	3 対策の内容								
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ (令和2年6月末時点)		建家の耐震 分類	構造	耐震性*1	耐津波性*2											
			✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等		*1:比は保有水平耐力比の最小値 *2:比は保有水平耐力/津波荷重の最小値																
5	高放射性固体廃棄物貯蔵庫 (HASWS)	高放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物、ハル缶等 (セル)	ハル缶等 (セル)	約576.8m <sup>3</sup>	FP (Cs-137等)	A類	RC造 (上家はS造)	設計地震動に対し、セルは維持される。(設計津波に対し、上家は維持されない可能性がある。)	設計津波に対し、セルは維持される。(設計津波に対し、上家は維持されない可能性がある。)	・設計地震動及び設計津波に対して、ハル缶等を貯蔵するセルについては、維持される。 ・セルには、給気口等の開口部があるため、海水の流入は否定できず、プール水の一部が建家外に流出する可能性がある。 ・セル内の分析廃棄物用容器内の分析廃棄物等と海水の接触により、放射性物質の一部が建家外に流出する可能性がある。	プール水の一部の建家外に流出する可能性があるが、セルが維持されるため、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)	検討中								
			分析廃ジャグ等	分析廃棄物用容器 (セル)	約278.1m <sup>3</sup>	FP (Cs-137等)								比:0.7 (上家)、7.7 (セル)	比:0.1 (上家)、4.7 (セル)	分析廃ジャグ等が海水に接触し、放射性物質が建家外に流出する可能性があるが、セルが維持されるため、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)					
6	ガラス固化技術開発施設 (TVF)ガラス固化技術開発棟	高放射性廃液のガラス固化、ガラス固化体の保管	ガラス固化体	ガラス固化体 (保管ピット6段積) BF	316本	T-α :約6.0 ×10 <sup>13</sup> Bq T-β γ :約5.7 ×10 <sup>15</sup> Bq	FP (Cs-137等)	A類	地下2階、地上3階	SRC造											
			高放射性廃液 (洗浄液)	廃液 (貯槽) BF	約3 m <sup>3</sup>	約8.8 ×10 <sup>14</sup> Bq	FP (Cs-137等)														
			ヨウ素フィルタ (AgX)	保管容器に保管 BF2	6基		FP (I-129)														
7	プルトニウム転換技術開発施設 (PCDF)	MOX粉末の貯蔵					A類	地下1階、地上4階 (一部塔屋)	RC造	設計地震動に対し、建家は維持される。	設計津波に対し、建家は維持される。	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可能性がある。 ・設計地震動に対して、地下階のセル外の貯槽等は、維持されず、ウラン溶液の一部が建家外に流出する可能性がある。 ・ピット内の貯蔵容器の閉じ込めは維持される。 ・グローブボックスの浸水により、放射性物質の一部が建家外に流出する可能性がある。	貯槽内のウラン溶液の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリが小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ④)	検討中							
8	高放射性廃液貯蔵場 (HAW)	高放射性の液体廃棄物の貯蔵	高放射性廃液	廃液 (貯槽) BF1	約341 m <sup>3</sup>	β γ :約3.2 ×10 <sup>18</sup> Bq	FP (Cs-137等)	A類	地下1階、地上4階 (一部地上5階)	RC造											

安全に関する情報リスト

施設の基本情報											津波シナリオ、影響評価、対策等				
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等				C 建家の耐震性/耐津波性評価				1 保守的に想定したシナリオ	2 シナリオに基づくリスク評価	3 対策の内容		
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ (令和2年6月末時点)		建家の耐震 分類	構造	耐震性*1	耐津波性*2					
			✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等		*1:比は保有水平耐力比の最小値 *2:比は保有水平耐力/津波荷重の最小値										
9	第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 (2HASWS)	高放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物、ハルエンドピース等	ドラム容器 (貯蔵ラック10段積) BF	約1458本	~10 <sup>15</sup> Bq (プール水は ~10 <sup>11</sup> Bq)	FP (Cs-137等)	A類	地下2階、地上3階 SRC造	設計地震動に対し、建家は維持される。 比:1.7	設計津波に対し、建家は維持される。 比:4.4	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可能性がある。 ・セルには、給気口等の開口部があるため、海水の流入は否定できず、プール水の一部が建家外に流出する可能性がある。 ・乾式セル内のドラム容器内に貯蔵されている雑固体廃棄物等と海水が接触し、放射性物質が建家外に流出する可能性がある。	プール水の一部が建家外に流出する可能性があるが、プール水のインベントリは小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)	乾式セル内のドラム容器内の放射性物質が建家外に流出する可能性があるが、セルが維持されるため、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)	検討中
10	アスファルト固化処理施設 (ASP)	低放射性の液体廃棄物の貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液 (貯槽) BF2	約93 m <sup>3</sup>	~10 <sup>13</sup> Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下2階、地上4階 RC造	設計地震動に対し、建家が維持されない可能性がある。(地下階は維持される。)	設計津波に対し、建家は維持されない可能性がある。(地下階は維持される。)	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持されない可能性があり、浸水する。 ・設計地震動に対して、地下階の貯槽等は、維持されない可能性があるがそれを包含するセル等は維持される。 ・貯槽が設置されたセルは設計地震動及び設計津波に対して維持されるが、給気口等の開口部があるため、浸水する可能性がある。 ・セル内の貯槽の閉じ込めが維持されない可能性があり、貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性がある。	貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性があるが、地下階においては、セルが維持されるため、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)		検討中
11	アスファルト固化体貯蔵施設 (AS1)	アスファルト固化体等の貯蔵	アスファルト固化体	ドラム缶 (4本/フレーム収納6段積) BF1~1F	13,754本	~10 <sup>14</sup> Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137等)	B類	地下1階 (一部地下2階)、地上1階 (一部地上3階) RC造	設計地震動に対し、建家は維持される。 比:2.1	設計津波に対し、建家は維持される。 比:2.3	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可能性がある。 ・地震により蓋の外れた一部のドラム缶内の固体廃棄物と海水の接触により、ドラム缶内の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性がある。	ドラム缶内の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリは小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑦、⑧)		検討中
		プラスチック固化体			828本	FP (Cs-137等)									
12	スラッジ貯蔵場 (LW)	スラッジなどの貯蔵	廃溶媒	廃液 (貯槽) BF	約34 m <sup>3</sup>	~10 <sup>10</sup> Bq	FP (Cs-137等)	B類	地上2階 (1階の一部は地下) RC造	設計地震動に対し、建家は維持される。 比:2.8	設計津波に対し、建家は維持される。 比:1.4	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可能性がある。 ・設計地震動に対して、地下階の貯槽は、維持されない可能性がある。 ・貯槽内の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性がある。	貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリが小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ②)		検討中
		スラッジ	廃液 (貯槽)	約285 m <sup>3</sup>	~10 <sup>9</sup> Bq	FP (Cs-137等)									
13	第三低放射性廃液蒸発処理施設 (Z)	低放射性の液体廃棄物の処理	低放射性濃縮廃液	廃液 (ライニング槽) BF	約849 m <sup>3</sup>	~10 <sup>11</sup> Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下2階、地上4階 RC造	設計地震動に対し、建家は維持される。 比:1.7	設計津波に対し、建家は維持される。 比:1.3	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可能性がある。 ・設計地震動に対して、地下階の貯槽は、維持されない可能性があるがそれを包含するセル、ライニング槽は維持される。 ・地下階のセル、ライニング槽には、給気口等の開口部があるため、津波の流入は否定できず、貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性がある。	貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性があるが、セルが維持されるため、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)		検討中
		低放射性廃液	廃液 (貯槽) BF	約385 m <sup>3</sup>	~10 <sup>8</sup> Bq	FP (Cs-137等)									

安全に関する情報リスト

施設の基本情報								津波シナリオ、影響評価、対策等									
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等				C 建家の耐震性/耐津波性評価				1 保守的に想定したシナリオ	2 シナリオに基づくリスク評価	3 対策の内容				
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ (令和2年6月末時点)		建家の耐震分類	構造	耐震性*1	耐津波性*2							
			✓主な設備		✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等						*1: 比は保有水平耐力比の最小値 *2: 比は保有水平耐力/津波荷重の最小値						
14	第二スラッジ貯蔵場 (LW2)	スラッジなどの貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液 (ライニング槽) BF	約561 m <sup>3</sup>	~10 <sup>13</sup> Bq	FP (137Cs等)	B類	地下2階、地上2階 RC造	設計地震動に対し、建家が維持されない可能性がある。(地下階は維持される。)	設計津波に対し、建家が維持されない可能性がある。(地下階は維持される。)	比: 1.3 (地上階)、7.9 (地下階)	比: 0.4	① 設計津波に対して建家は維持されない可能性があり、浸水する。 ② 設計地震動に対して、地下階のセル (ライニング貯槽) は維持される。 ・地下階のセルには、給気口等の開口部があるため、津波による海水の流入は否定できず、貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性がある。	貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性があるが、セルが維持されるため、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)	検討中	
			スラッジ	廃液 (ライニング槽) BF	約874 m <sup>3</sup>	~10 <sup>9</sup> Bq											FP (137Cs等)
15	第二低放射性廃液蒸発処理施設 (E)	低放射性の液体廃棄物の処理	低放射性廃液 (運転時)	廃液 (蒸発缶)	約6 m <sup>3</sup>	~10 <sup>5</sup> Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下1階、地上3階 RC造	設計地震動に対し、建家は維持される。	設計津波に対し、建家は維持されない可能性があり、浸水する。	比: 1.9	比: 0.8	・設計津波に対して建家は維持されない可能性があり、浸水する。 ・設計地震動に対して、蒸発缶が維持されず、廃液が建家外に流出する可能性がある。	蒸発缶の廃液が建家外に流出する可能性があるが、インベントリは小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ①)	検討中	
16	廃溶媒貯蔵場 (WS)	廃溶媒の貯蔵	廃溶媒	廃液 (貯槽) BF	約55 m <sup>3</sup>	~10 <sup>10</sup> Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下1階、地上2階 RC造	設計地震動に対し、建家は維持される。(地下階は維持される。)	設計津波に対し、建家は維持されない可能性があり、浸水する。	比: 1.8	比: 0.8	・設計津波に対して建家は維持されない可能性があり、浸水する。 ・設計地震動に対して、地下階の貯槽は、維持されない可能性があるがそれを包含するセルは維持される。 ・地下階のセルには、給気口等の開口部があるため、津波の流入は否定できず、貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性がある。	貯槽内の廃液が建家外に流出する可能性があるが、セルが維持されるため、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)	検討中	
17	放出廃液油分除去施設 (C)	低放射性の液体廃棄物の処理及び放出	低放射性廃液	廃液 (貯槽) BF	約770 m <sup>3</sup>	~10 <sup>10</sup> Bq	H-3	C類	地下1階、地上3階 RC造	設計地震動に対し、建家が維持されない可能性がある。(地下階は維持される。)	設計津波に対し、建家は維持されない可能性があり、浸水する。	比: 1.1 (地上階)、4.2 (地下階)	比: 0.9	・設計津波に対して、建家は維持されない可能性があり、浸水する。 ・設計地震動に対して、地下階の貯槽等は、維持されない可能性があるがそれを包含するセル等は維持される。 ・地下階のセルには、給気口等の開口部があるため、海水の流入は否定できず、貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性がある。	貯槽内の廃液が建家外に流出する可能性があるが、セルが維持されるため、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)	検討中	
			スラッジ	廃液 (貯槽) BF	約3 m <sup>3</sup>	~10 <sup>6</sup> Bq											FP (Cs-137等)
			廃活性炭	廃液 (貯槽) BF	約88 m <sup>3</sup>	~10 <sup>10</sup> Bq											FP (Cs-137等)
18	第二アスファルト固化体貯蔵施設 (AS2)	アスファルト固化体等の貯蔵	アスファルト固化体	ドラム缶 (4本/パレット 収納3段積) BF1~2F	16,213本	~10 <sup>14</sup> Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137等)	B類	地下1階 (一部地下2階)、地上3階 (一部地上4階) RC造	設計地震動に対し、建家は維持される。	設計津波に対し、建家は維持される。	比: 1.8	比: 3.9	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可能性がある。 ・地震により蓋の外れた一部のドラム缶内の固体廃棄物と海水の接触により、ドラム缶内の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性がある。	ドラム缶内の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリが小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑦、⑧)	検討中	
			プラスチック固化体		984本		FP (Cs-137等)										
			雑固体廃棄物		19本		FP (Cs-137等)										

安全に関する情報リスト

施設の基本情報										津波シナリオ、影響評価、対策等				
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等 ✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等				C 建家の耐震性/耐津波性評価 *1:比は保有水平耐力比の最小値 *2:比は保有水平耐力/津波荷重の最小値				1 保守的に想定したシナリオ	2 シナリオに基づくリスク評価	3 対策の内容	
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ (令和2年6月末時点)		建家の耐震分類	構造	耐震性*1	耐津波性*2				
19	ウラン脱硝施設 (DN)	ウランの脱硝						B類	地下1階、地上3階 (一部塔屋) RC造	設計地震動に対し、建家は維持される。 設計津波に対し、建家は維持される。 比: 2.0	設計津波に対し、建家は維持される。 比: 1.2	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可能性がある。 ・設計地震動に対して、地下階の貯槽は、維持されない可能性があり、ウラン溶液の一部が建家外に流出する可能性がある。	貯槽内のウラン溶液の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリが小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ④)	○U溶液の安定化 (粉末化) 及び施設外への搬出
20	低放射性濃縮廃液貯蔵施設 (LWSF)	低放射性の廃液などの貯蔵	低放射性濃縮廃液	廃液 (貯槽・ライニング槽) BF	約1,054 m <sup>3</sup>	~10 <sup>14</sup> Bq	C-14 FP (I-129, Cs-137等)	B類	地下2階、地上2階 RC造	設計地震動に対し、建家は維持される。 比: 2.1	設計津波に対し、建家は維持される。 比: 1.1	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可能性がある。 ・設計地震動に対して、地下階の貯槽は、維持されない可能性があるがそれを包含するセルは維持される。 ・地下階のセル、ライニング槽には、給気口等の開口部があるため、海水の流入は否定できず、貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性がある。	貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性があるが、セルが維持されるため、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)	検討中
			リン酸廃液	廃液 (貯槽) BF	約17 m <sup>3</sup>	~10 <sup>12</sup> Bq	FP (Cs-137等)							
21	廃溶媒処理技術開発施設 (ST)	廃溶媒, 廃希釈剤の処理	廃溶媒	廃液 (貯槽) BF	約6 m <sup>3</sup>	~10 <sup>10</sup> Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下2階、地上3階 RC造	設計地震動に対し、建家は維持される。 比: 2.1	設計津波に対し、建家は維持される。 比: 1.4	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可能性がある。 ・設計地震動に対して、地下階の貯槽は、維持されない可能性があるがそれを包含するセルは維持される。 ・地下階のセルには、給気口等の開口部があるため、海水の流入は否定できず、貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性がある。	貯槽内の廃液の一部が建家外に流出する可能性があるが、セルが維持されるため、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑤)	検討中
22	低放射性廃棄物処理技術開発施設 (LWTF)低放射性廃棄物処理技術開発棟	低放射性の液体及び固体廃棄物の処理	現状は放射性物質の取扱いなし。	-	-	-	-	B類	地下2階、地上5階 RC造	設計地震動に対し、建家は維持されない可能性がある。 比: 1.4	設計津波に対し、建家は維持される。 比: 4.1			
23	ウラン貯蔵所 (UO3)	ウラン製品の貯蔵	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)					C類	平屋 RC造 (屋根部はS造)	設計地震動に対し、建家が維持されない可能性がある。 比: 0.9	設計津波に対し、建家は維持されない可能性がある。 比: 0.9	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持されない可能性があり、浸水する。 ・容器の破損等により、放射性物質の一部が建家外に流出する可能性がある。	容器内の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリが小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑥)	○容器の固縛
24	除染場 (DS)	汚染機器類の除染	放射性廃棄物等の貯蔵はない。	-	-	-	-	C類	地上2階 RC造	設計地震動に対し、建家が維持されない可能性がある。 比: 追而	設計津波に対し、建家は維持されない可能性がある。 比: 追而	設計地震動及び設計津波に対して建家は維持されない可能性があり、浸水する。	放射性物質の貯蔵はないため、環境への影響はない。	

安全に関する情報リスト

施設の基本情報										津波シナリオ、影響評価、対策等				
No.	施設	A 施設の使用目的	B 主なインベントリ等				C 建家の耐震性/耐津波性評価				1 保守的に想定したシナリオ	2 シナリオに基づくリスク評価	3 対策の内容	
			性状・貯蔵/保管状況等		インベントリ (令和2年6月末時点)		建家の耐震 分類	構造	耐震性*1	耐津波性*2				
			✓主な設備 ✓内包する放射性物質のインベントリ、性状等		*1:比は保有水平耐力比の最小値 *2:比は保有水平耐力/津波荷重の最小値									
25	焼却施設 (IF)	低放射性の可燃性固体廃棄物などの焼却処理	低放射性固体廃棄物 (可燃)	カートンボックス、袋 BF1~3F	約2,500kg	~10 <sup>9</sup> Bq	FP (Cs-137等)	B類	地下1階、地上5階 RC造	設計地震動に対し、建家は維持される。 比:3.2	設計津波に対し、建家は維持される。 比:3.0	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可能性がある。 ・設計地震動に対して、地上階の貯蔵は維持されず、放射性物質が建家外に流出する可能性がある。 ・設計地震動に対して、地下階の貯蔵等は維持されず、放射性物質の一部が建家外に流出する可能性がある。 ・低放射性固体廃棄物・焼却灰が浸水し、海水に移行した放射性物質が建家外に流出する可能性がある。	低放射性固体廃棄物や貯蔵等の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリは小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ②、④、⑦、⑧)	検討中
	焼却灰	ドラム缶 BF1	約320kg	~10 <sup>10</sup> Bq										
	希釈剤 (回収ドデカン)	貯槽内 BF1	約200L	~10 <sup>5</sup> Bq										
	廃活性炭	貯槽内 3F	約150kg	~10 <sup>7</sup> Bq										
26	第二低放射性固体廃棄物貯蔵場 (2LASWS)	低放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物	ドラム缶 (4本/パレット 収納3段積) コンテナ (3段積) BF1~2F	約11615 本	~10 <sup>12</sup> Bq	FP (Cs-137等) Pu U	C類	地下1階、地上2階 RC造 (一部S造)	設計地震動に対し、建家は維持されない可能性がある。 比:1.4	設計津波に対し、建家は維持される。 比:2.2	・設計地震動に対して建家は維持されない可能性があり、浸水する。 ・地震により蓋の外れた一部の廃棄物容器 (ドラム缶等) 内の固体廃棄物と海水の接触により、廃棄物容器内の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性がある。	廃棄物容器内の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリは小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑥、⑧)	○容器の固縛
27	第二ウラン貯蔵所 (2UO3)	ウラン製品の貯蔵	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)					C類	平屋 (一部2階) RC造 (屋根部はS造)	設計地震動に対し、建家が維持されない可能性がある。 比:1.1 (貯蔵庫)	設計津波に対し、建家は維持されない可能性がある。 比:0.6 (貯蔵庫)	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持されない可能性があり、浸水する。 ・容器の破損等により、放射性物質の一部が建家外に流出する可能性がある。	容器内の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリは小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑥)	○容器の固縛
28	第一低放射性固体廃棄物貯蔵場 (1LASWS)	低放射性の固体廃棄物の貯蔵	雑固体廃棄物	ドラム缶 (4本/パレット 収納3段積) コンテナ (3段積) BF1~5F	約33,323 本	~10 <sup>13</sup> Bq	FP (Cs-137等) Pu U	C類	地下1階、地上5階 SRC造	設計地震動に対し、建家は維持される。 比:1.8	設計津波に対し、建家は維持される。 比:5.0	・設計地震動及び設計津波に対して建家は維持される。 ・建家の開口部等から、浸水する可能性がある。 ・地震により蓋の外れた一部の廃棄物容器 (ドラム缶等) 内の固体廃棄物と海水の接触により、廃棄物容器内の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性がある。	廃棄物容器内の放射性物質の一部が建家外に流出する可能性があるが、インベントリは小さく、環境への影響は大きくない。(シナリオ⑦、⑨)	○容器の固縛
29	第三ウラン貯蔵所 (3UO3)	ウラン製品の貯蔵	ウラン製品 (三酸化ウラン粉末)					C類	平屋 (一部2階) SRC造 (屋根部はS造)	設計地震動に対し、建家は維持される。 比:2.8	設計津波に対し、建家は維持されない可能性があり、浸水する。 比:0.5、8.5 (コンクリートピット)	・設計津波に対して建家は維持されない可能性があり、浸水する。 ・容器はピット内に保管されており、コンクリートピットは維持される。	容器はピット内に保管されており、放射性物質の流出はないため、環境への影響はない。	
30	リサイクル機器試験施設 (RETF)	—	放射性物質の取扱いなし。	—	—	—	—	A類	地下2階、地上6階 SRC造					
31	排水モニタ室	放出廃液の放射能測定	放出廃液	—	—	—	—	C類	平屋 (一部地下1階) RC造	追而	追而	・設計地震動・設計津波に対して建家は維持されない可能性があり、浸水する。 ・配管の破損等により、放出廃液が建家外へ流出する可能性がある。	放出廃液が建家外に流出する可能性があるが、インベントリはごくわずかであり、環境への影響はない。	